9706R870HJ2402

MITSUBISHI

三菱クリーンヒーター®
〈密閉式石油ストーブ〉

形名
VKT-402H
VKT-302H

据付工事説明書　販売店・工事店さま用

■据付工事を始める前に必ずこの据付工事説明書をお読みになり、正しく安全に据付けてください。
■据付工事は販売店または専門の工事店さまが実施してください。
お客さま自身で据付工事をしないでください。
（ご自分で据付工事をされ、不備があると排気ガス漏れ、感電、火災の原因になります）
■据付工事部品は必ず付属部品およびシステム部材をご使用ください。
（付属部品およびシステム部材を使用しないと故障の原因となります）
■買い換えの場合も新しい給排気部品、ゴム製送油管を使用して据付工事を行ってください。
（排気筒はずれ検知装置が誤作動したり、排気ガス漏れ、油漏れの原因になります）

もくじ

ページ
安全のために必ずお守りください……火災、事故防止等安全について……1～5
開梱……付属部品および使用箇所の確認……6
油タンクの据付け……条件、屋内送油管の取付けかた……7～8
据付方法……壁穴工事、標準給排気工事……8～11
延長給排気工事について……12～13
標高・給排気設定のしかた……14
据付工事後の点検・確認……15
試運転……16

据付新情報

より安全にご使用していただくために、据付け時に標高調節と給排気条件の設定が簡単にボタン操作でできます。
据付け時に設定を行ってください。　手順……ページ 14 参照

安全のために必ずお守りください

●誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

⚠危険	作業を誤った場合に、据付工事作業者または使用者が死亡や重傷などに結びつくもの
⚠警告	作業を誤った場合に、据付工事作業者または使用者が死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの
⚠注意	作業を誤った場合に、据付工事作業者または使用者が傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの

●図記号の意味は、次のとおりになっています。

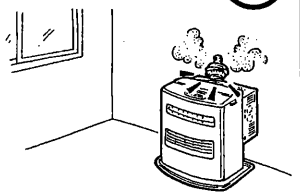
⃠	禁　止
❗	指示に従い必ず行う

据付場所の確認

据付場所を決めるときはお客さまと良く相談してください。

⚠危険

室内給排気厳禁



（異常燃焼し、一酸化炭素中毒の原因になります）

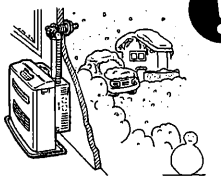
⚠警告

据付けや移動は販売店へ依頼する

（ご自分で据付工事をされ、不備があると排気ガス漏れ、感電、火災の原因になります。）

火災予防条例、電気設備に関する技術基準、電気工事は指定の工事店に依頼するなど法令の基準を守る

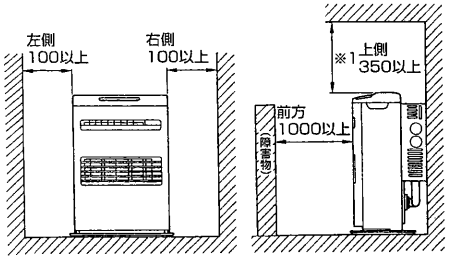
給排気筒トップ閉そく危険
積雪の多い地方では、給排気筒トップが雪で埋もれない位置に取付けること



（排気ガスが室内に漏れ、一酸化炭素中毒の原因になります）

⚠注意

可燃物との距離を離す
製品の周囲の可燃物・障害物との離隔寸法を確保する
この製品は防火性能評定委員会で認定承認されたものですので防火評定条件でも据付可能です



単位(mm)

※1. 別売りの中折れフィルターを使用しますと、200mmまで上側寸法を近ずけることができます。
その場合は、左、右どちらか一方に、裏面点検のため300mmを確保してください。

⚠注意

次のような場所には据付けない
- ●水平でない場所、不安定な場所
- ●不安定なものを乗せた棚などの下
- ●可燃性ガスの発生する場所またはたまる場所
- ●付近に燃えやすいものがある場所
- ●階段、避難口などの付近で避難の支障となる場所
- ●温室、飼育室など人のいない場所

（火災や予想しない事故の原因になります）

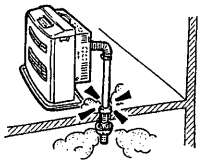
- ●浴室など湿気の多いところに据付けない

（感電の原因になります）

給排気について

⚠警告

床下給排気禁止
必ず屋外に排気してください



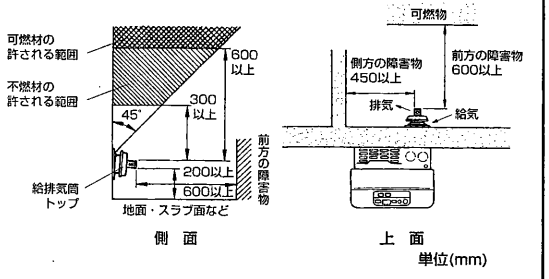
（排気ガスが室内に漏れ危険です）

はずれ危険
排気筒を確実に接続し、しっかり固定してください

（風、振動、衝撃などで、はずれたりすると運転中に排気ガスが室内に漏れ危険です）

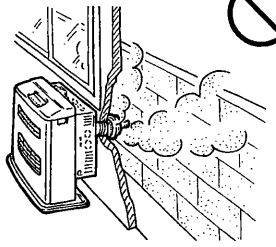
⚠注意

給排気筒トップは、十分開放された空間に取付けてください
下図の寸法は防火上の必要寸法です



600mm以上の寸法は、不燃材を使用する場合、300mm以上とする

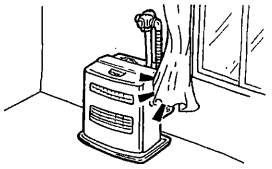
排気ガスを滞留させない
給排気筒トップは、周辺に建築物の突出物等や障害物のあるところには取付けない



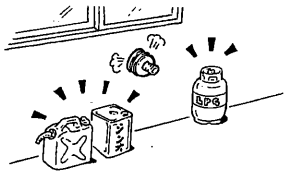
（排気ガスが給気側へ流入すると運転停止［E-01，E-13］することがあります）

⚠注意

可燃物近接禁止



危険物近接禁止



高層建築の集合煙突を利用しての給排気工事は絶対行わない

（運転停止したり、不完全燃焼の原因になります）

排気ガスが室内（隣家も含め）に入りやすいところには据付けない

（室内空気が汚染されます）

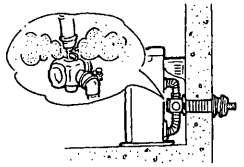
排気ガスに注意
愛がん動物や植木などに排気ガスをあてない

（動物が死んだり、植木が枯れる原因になります）

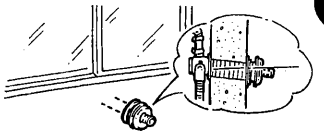
ゴム製送油管の屋外使用禁止
ゴム製送油管は屋外で使用しない

（ひび割れを生じて油漏れの原因になります）

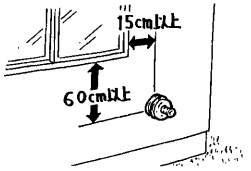
接続部のゆるみ点検



給排気筒トップは屋外に向かって下り勾配のこと



給排気筒トップと開口部との距離は離す



２台以上据付ける場合は各々の給排気壁穴の間隔は、水平方向に500mm以上、垂直方向に１ｍ以上離すこと

（排気ガスの給気口への吸い込みによる運転停止や不完全燃焼の原因になります）

給排気筒の点検

（取付けが終ったら、もう一度点検してください）

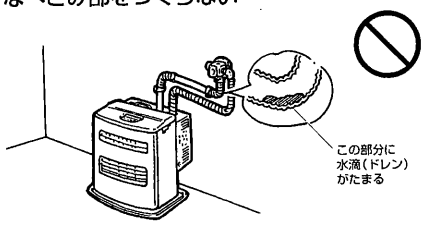
油タンクとの距離を離す

安全のために必ずお守りください

延長工事について

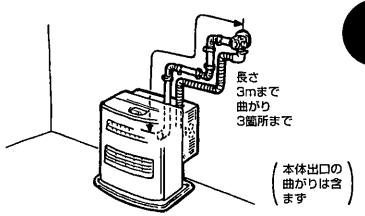
⚠注意

排気筒の途中に水滴(ドレン)がたまるようなへこみ部をつくらない



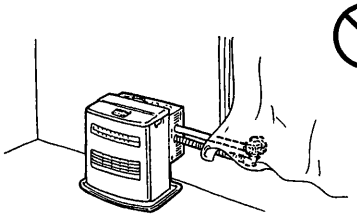
(排気ガス中のドレンが排気筒内にたまり、運転停止や、不完全燃焼の原因になります)

給排気の延長可能な長さは3m以内で、曲がり3箇所以内とする



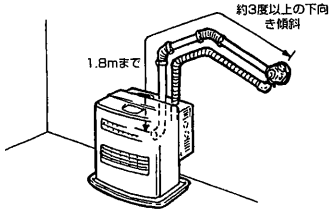
(これ以上長く延ばしたり曲がりが多くなりますと燃焼空気が不足し、運転停止や、不完全燃焼の原因となります)

カーテンなど可燃物を排気筒に接触させない



(火災の原因になります
排気筒の近くにカーテンなどの燃えやすいものがある場合は、100mm程度以上離すか、配管カバー[システム部材]を使用してください)

排気筒のドレンもどり長さは1.8m以内とする



(燃焼によって発生する水滴[ドレン]のもどりは、排気筒長さが1.8m以上になると、製品内部にドレンがもどり、燃焼器を腐食させることがあります。そのために1.8m以上の排気筒には約3度以上の下向き傾斜をつけてください)

据付け前のお願い

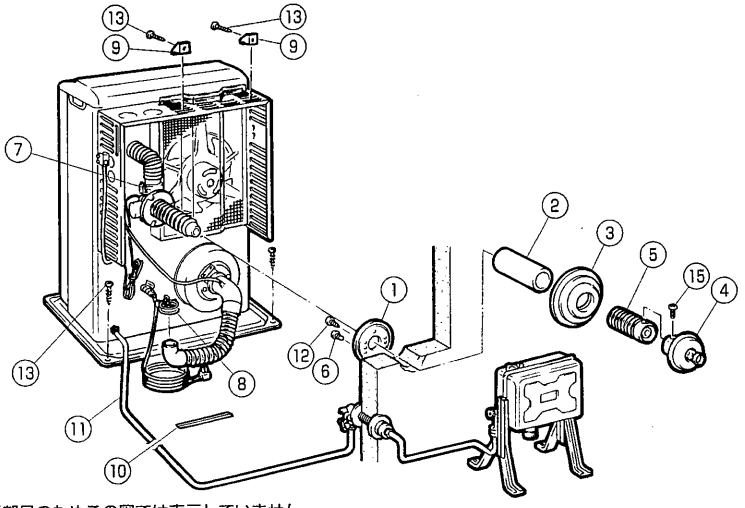
給排気筒トップの先端(排気口)からドレン(水滴)が池に落下したり腐食させる恐れがあるところには取付けない	特殊環境(温泉害、塩害、大気汚染、化学薬品を使用する場所)には据付けない (腐食・劣化の原因になります)	標高1500m以上の高地では据付けない (空気不足により運転停止をしたり不完全燃焼の原因になります)
●直射日光の当たる場所に据付けない ●右側面に壁がある場合は壁サーモの位置を移動してください (室温調節が正しく行われないことがあります)	熱に弱い床面は保護する 熱に強いマット類を敷いてください (吹出口前方の床面は40～50℃程度になります。床面によっては変色したり、変形・収縮することがあります)	毛足の長いじゅうたんの上に置く場合は、安定のよい敷き板などを敷いて水平にする (製品が不安定になったり、じゅうたんが変色することがあります)

開梱

付属部品の確認

①室内傾斜フランジ…1個	②絶縁パイプ…1個	③室外傾斜フランジ…1個	④トップフード…1個	⑤中間パイプ…1個 (本体に付属)
⑥給排気筒トップ 取付ネジ……3本 (皿ネジ) (延長給排気工事のみ)	⑦C形ストッパー…1個 (本体に取付けてあります)	⑧給気ホースバンド…1個	⑨壁固定部品…2個	⑩コードバンド…2本
⑪ゴム製送油管…1本 (締付金具…2個)	⑫室内傾斜フランジ 取付ネジ…3本	⑬壁・床固定用 ネジ…4本 (木ネジ)	⑭リード クリップ…2個	⑮トップフード 取付ネジ…1個 (中間パイプに付属)

付属部品の使用箇所

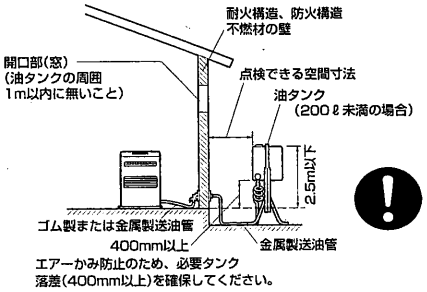


※⑭は延長部品のためこの図では表示していません。

油タンクの据付け

油タンクおよび必要なシステム部材の据付けは、各々に同梱の説明書に従ってください。

条　件　⚠注意　油タンクとの距離を離す

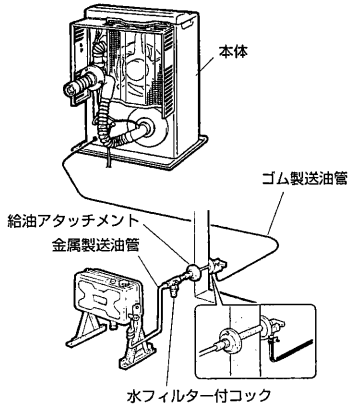


付属のゴム製送油管が短く製品と油タンクとの離隔距離が確保できなかったり、給油コックに接続できない場合は、当社サービス部品の給油ホース2.5m品（M45508261）をご使用ください。
油タンクはアンカーボルトで床に固定するなど、転倒防止の処置を必ず行ってください。

- 油タンクは、畳・じゅうたんなどの上に据付けないでください。
- 油タンクは、製品との間に防火上有効な壁などがない場合には2m以上離してください。
- 油タンク落差は、左図のように400mm以上、2.5m以下としてください。低すぎると油が製品に供給されず、また高すぎると定油面器内で灯油がしゃ断され燃焼を停止したり、定油面器から油がこぼれることがあります。大型タンクを戸外に据付ける場合も、左図の落差を守ってください。
- 油タンクの据付けは各地の火災予防条例に従ってください。わからないときは、お近くの消防署におたずねください。

屋内送油管の取付けかた

屋内送油管はゴム製送油管または銅パイプを使用することができます。

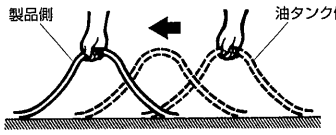


ゴム製送油管の取付けかた

1. 付属のゴム製送油管を製品の接続口と給油アタッチメントの接続口に差し込み、締付金具で確実に締め付けます。

⚠注意

ゴム製送油管の屋外使用禁止
ゴム製送油管は屋外で使用しない
(ひび割れを生じて油漏れの原因になります)



ゴム製送油管を製品の方向にたぐって空気を追い出す。

2. ゴム製送油管を製品側へたぐって空気を追い出します。
- ゴム製送油管の途中が山形になったり、もつれていると、ゴム製送油管の中に空気がたまって油が流れないことがあります。

屋外送油管について

屋外の送油管は必ず金属配管を使用してください。
下表のシステム部材をご利用ください。

品　名	形　名
銅 配 管 セ ッ ト	VKZ-20
給油アタッチメント	VKZ-02B・VKZ-04B
水フィルター付コック(金属配管用)	VKZ-8K

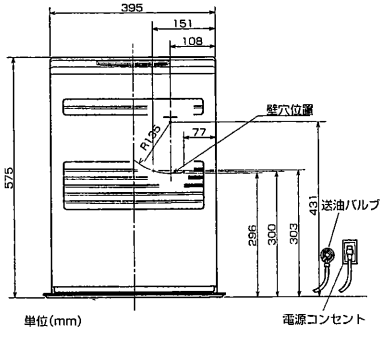
据付方法(標準据付け)

壁穴工事

[お願い]

- 穴をあける際、壁内のスジカイ・電気配線・ガス・水道の配管などに当たらないところを選んでください。
- ラス網等は十分カットし、これらの金具部分に給排気筒トップが接しないよう電気的絶縁を行ってください。
〔電気設備技術基準（第203条）参照〕
- 電源コンセントや送油バルブが製品の裏面にかくれないようにしてください。

1



製品の据付位置によって壁穴位置を決めます。

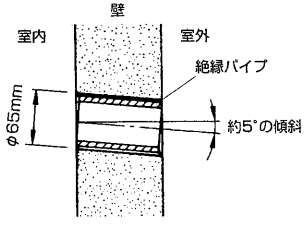
- 標準給排気方式の場合、左図の位置に穴をあけます。

付属部品で取付可能な壁厚は220mmまでです。

- 壁厚に応じたシステム部材の選定

壁　厚	システム部材	備　考
66 ~135mm	VGZ-21SP (スペーサーリング)	システム部材を使用しないと壁密着取付けができません
90 ~135mm	VGZ-09ST (薄壁対応給排気筒トップ)	壁密着取付けができます (対応範囲外では、壁密着取付けはできません)
135 ~220mm	不　要	
220 ~730mm	厚壁用部材参照	

2



壁に穴をあけ、絶縁パイプを切断します。

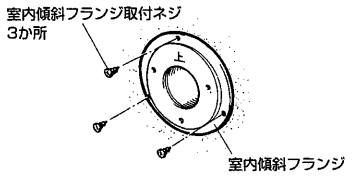
- φ65mmホールコアドリルにより室内から室外に向けて約5°の下向き傾斜で穴をあけます。(穴の直径が100mmより大きくならないよう注意してください)
- 絶縁パイプを壁の厚さに合わせて切断します。

裏面へ 8

据付方法(標準据付け)

標準給排気工事

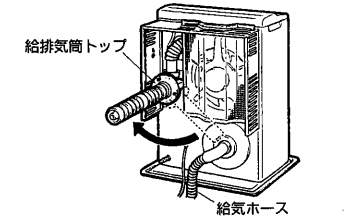
1



室内傾斜フランジを取付けます。

- 壁穴の室内側に室内傾斜フランジを室内傾斜フランジ取付ネジで固定します。
  室内傾斜フランジの「上」の文字が上になるように取付けます。

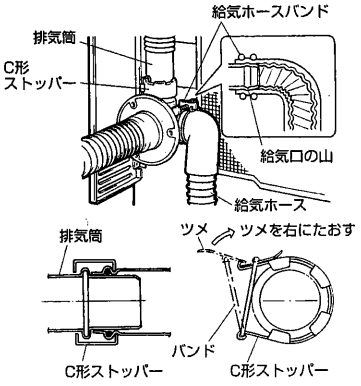
2



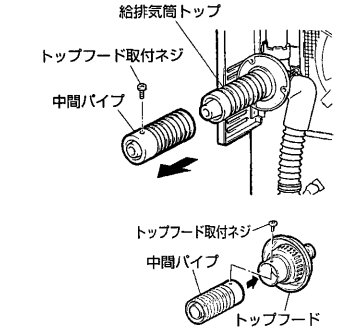
給排気筒トップに給気ホースを取付けます。

(1) 排気筒を回転させ(矢印の方向に約90度)給排気筒トップを使用状態にします。
(2) 給排気筒トップには給気口が2か所あります。取付けやすい給気口に給気ホースを接続します。
(3) 付属の給気ホースバンドで給気口の山をまたぐように締め付けます。
(4) 使用しない給気口には給気口キャップを必ず取付けます。
(5) 排気筒と給排気筒トップの接続部にC形ストッパーをはめ込みます。取付け後ストッパーがきいているか排気筒を引っ張って確認してください。

- C形ストッパーは、抜け防止と排気筒はずれ検知装置の電気的導通の役割を果たしていますので必ず取付けてください。



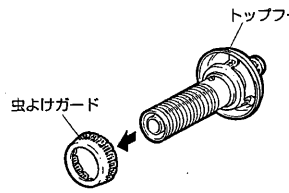
3



中間パイプをトップフードに付け換えます。

(1) 給排気筒トップにねじ込まれている中間パイプをはずします。
(2) 中間パイプに取付けられたトップフード取付ネジを一度はずします。
(3) 中間パイプをトップフードにしっかりはめ込み、ネジ穴を合わせてトップフード取付ネジで固定します。

3



寒冷地で使用する場合

外気温が−15℃以下になるような地域では
虫よけガードをトップフードからはずして据付けます。

- はずさないとガード部に霜が付着して、給気口がふさがれ、安全装置が作動して運転を停止することがあります。
- 寒冷地では、虫の侵入の可能性は少なく、虫よけガードをはずしても大丈夫です。

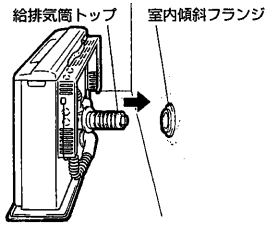
4

排気筒はずれ検知リードを固定します。

給排気筒トップに取付けてある排気筒はずれ検知リードを高温部に触らないようにコードバンドで固定します。

給排気筒トップの固定

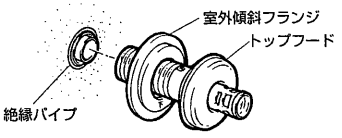
1



製品をずらし給排気筒トップを壁穴に差し込みます。

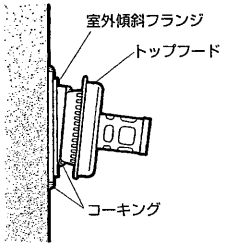
- 給排気筒トップのフランジ部が室内傾斜フランジに接するまで確実に差し込んでください。

2



室外側から絶縁パイプ、室外傾斜フランジ、トップフードを取付けます。

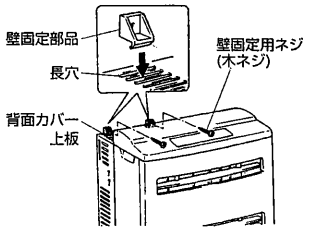
(1) 絶縁パイプと室外傾斜フランジを通します。



(2) 室外傾斜フランジを「下」印が下になるように注意して壁に密着させたまま、中間パイプを組付けたトップフードを時計方向に回し、室外傾斜フランジに密着させます。

※ 室外傾斜フランジの外周およびトップフードの外周にパテまたはコーキング材を塗布し、壁の中へ雨水が浸入するのを防いでください。
※ 室外傾斜フランジの壁へのネジ固定が必要な場合は、裏面の凹部を市販のタッピングネジで簡単に通すことができます。

製品の固定



壁固定部品により固定します。

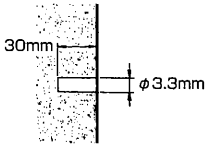
(1)付属の壁固定部品を背面カバー上板の長穴に引っ掛けます。(両側)

● 背面カバーの長穴を使用して、製品と壁面を固定します。

(2)壁固定部品を固定します。
壁の種類により固定のしかたが異なります。

壁が木または厚い合板の場合

付属の壁固定用ネジ(木ネジ)2本を使用して壁固定部品を壁に固定します。

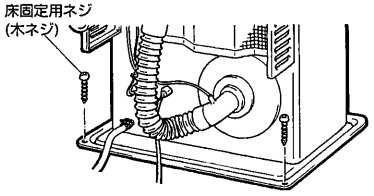


壁が石膏ボード・薄い合板・土壁・しっくい壁などの場合

① 壁にそえ木をします。
② 付属の壁固定用ネジ(木ネジ)で壁固定部品をそえ木に固定します。

壁がコンクリートの場合

① 左図のように下穴(φ3.3mm、深さ30mm)をあけます。
② 付属の壁固定用ネジ(木ネジ)で壁固定部品を固定します。



床を固定します。

付属の床固定用ネジ(木ネジ)2本を使用して床に固定します。

床がコンクリートの場合

① あらかじめ下穴(φ3.3mm、深さ30mm)をあけます。
② 付属の床固定用ネジ(木ネジ)で床に固定します。

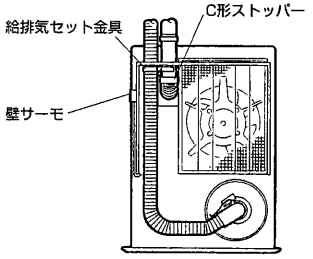
延長給排気工事について

標準給排気工事ができない場合に延長給排気工事を行いますが据付場所に応じてシステム部材の給排気セットが必要です。

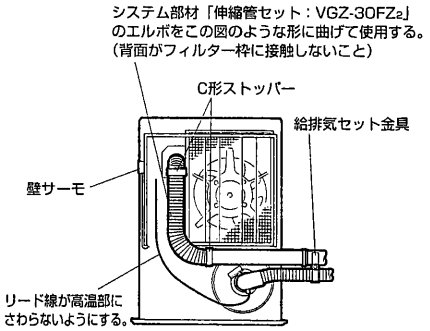
延長工事詳細については当社のシステム部材に同梱の「取付説明書」をお読みください。

上側・左側・右側への延長給排気工事要領 〈システム部材を使用〉

〈上排気〉(背面カバーをはずしてから工事を行います)

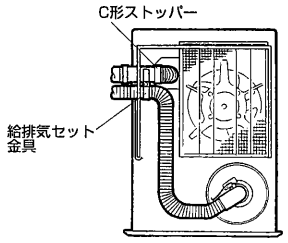


〈左排気〉



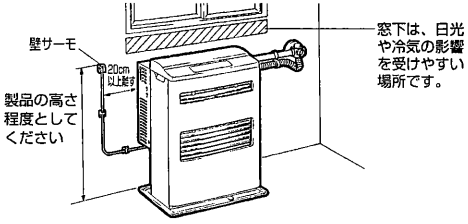
〈右排気〉(背面カバーをはずしてから工事を行います)

壁サーモ取付位置移動の場合



＊右排気の場合は壁サーモの移動が必ず必要です。
(右図を参考にしてください)

① 壁サーモ(カバー)を上方にスライドさせてはずします。
② 壁サーモ(カバー)を温風・直射日光・冷気の影響を受けない位置にカバー裏側の両面テープを利用して取付けます。
③ リード線は付属のリードクリップで高温部に触れないように止めます。

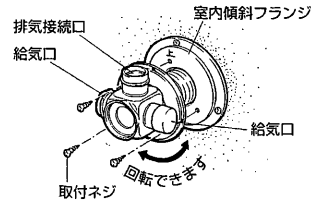


お願い

- 上側・左側・右側へ延長給排気工事を行う場合は、給排気セット金具を使用して給気ホースと排気筒を20mm以上離してください。
- 排気筒・給気ホースを壁サーモに近づけないようにしてください。
  (室温調節が正しく動作しないことがあります)
- 排気筒の長さより給気ホースの長さを極端に短かくしないでください。
  (異常音が発生することがあります)

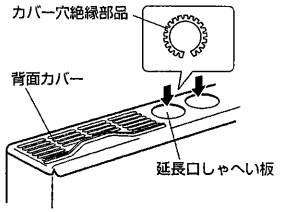
延長給排気工事について

1



壁穴に取付けた室内傾斜フランジに、給排気筒トップを取付ネジで取付けます。

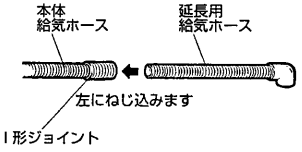
2



背面カバーの延長口しゃへい板を取りはずします。

- 製品に取付けたまま延長口しゃへい板をたたきますと背面カバーが変形しますので必ずはずして行ってください。
- 延長口の内周にシステム部材の伸縮管セットに入っているカバー穴絶縁部品を取付けてください。

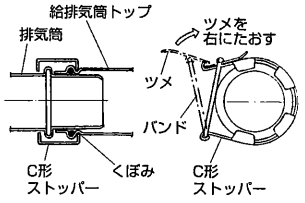
3



給気ホースを延長します。

- 延長用伸縮管セット(システム部材)の延長用給気ホースを接続します。
- 給排気セット金具を使用し、給気ホースと排気筒を20mm以上離してください。
- システム部材のI形ジョイントを使ってねじ込んでください。

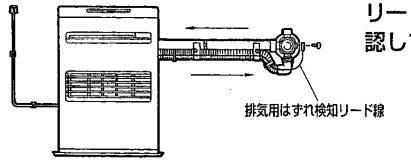
4



排気筒と給排気筒トップを接続します。

- 差し込むときOリングのねじれやはずれがないか確認してください。
- 排気筒と給排気筒トップの接続部にC形ストッパーを差し込んで、バンドを掛けてください。取付け後、ストッパーがきいているか排気筒を引っ張って確認してください。
- C形ストッパーは製品組込みおよびシステム部材に同梱されているもの以外は使用しないでください。

5

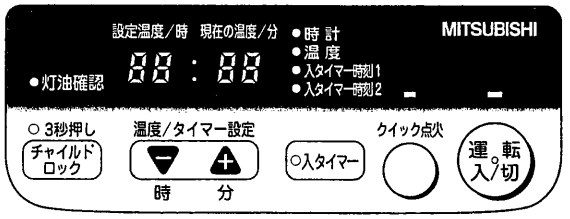


給排気筒トップの先端に排気用はずれ検知リード線が確実に取付けられていることを確認してください。

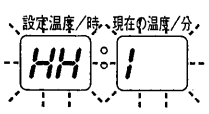
標高・給排気設定のしかた

据付け条件に合わせ設定を行います。

据付場所の標高・給排気条件により変化する燃焼状態を正適範囲に調節するためです。



1 表示部・操作部



初めて設定する場合

電源プラグを差し込む

- 「ピッ」と音がして、「標高・給排気設定」モードになる

メモ

工場出荷時
- 標高1ランク(0~250m)
- 標準給排気

2 標高・給排気設定のしかた

＋▼ボタンを押して下表により設定する

標高 [m]	0~250	250~500	500~750	750~1000	1000~1250	1250~1500
標準給排気	1 (工場出荷時)	2	3	4	5	6
延長給排気	1L	2L	3L	4L	5L	6L

＋ ボタンを1回押すごとに
1➡1L➡2➡…5L➡6➡6L
と変わる

▼ ボタンを1回押すごとに
1➡6L➡6➡…2L➡2➡1L
と逆回りする

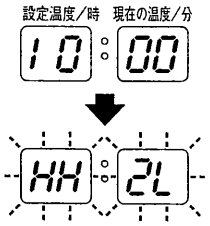
3 運転スイッチを一度「入」にすると設定条件を記憶します

- 使用しない場合は、運転スイッチを「切」にする

表示部・操作部

再設定する場合

(引越しなどで設定を変える場合)



電源プラグを差し込み、チャイルドロック、○入タイマーボタンを同時に3秒以上押して、「標高・給排気設定」モードにする

- 手順2、3で設定します

- 表示部は時計表示になっています

据付工事後の点検・確認

据付工事が終わりましたら、下表に従ってもう一度点検・確認をしてください。

不具合がありますと火災・排気ガスのもれおよび不完全燃焼の原因となりますので必ず取付けなおしをしてください。

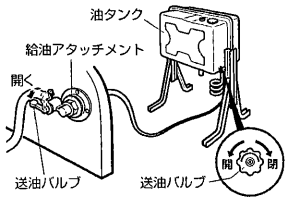
点検箇所		点検項目	チェック結果
製品		製品の回りは必要な空間がありますか。	
		床面の不安定な場所に据付けてありませんか。	
		丈夫な床面に製品が固定してありますか。	
		製品・ゴム製送油管から油漏れはありませんか。	
		ゴム製送油管を屋外で使用していませんか。(屋外は金属配管)	
		ゴム製送油管が排気部品に触れていませんか。	
油タンク		油タンクや送油管から油漏れはありませんか。	
		油タンクの据付けは基準寸法が守られていますか。	
給排気部品		給排気筒トップの周囲は基準寸法が守られていますか。	
		排気筒に給気ホースやカーテンなど、燃えやすいものが接触していませんか。	
		給排気筒のはずれ・ゆるみがありませんか。	
		排気ガスが屋外へ排気されるようになっていますか。	
		給排気筒トップの取付けが屋外に向って下り勾配になっていますか。	
		給排気筒トップの周囲に障害物(樹木・愛がん動物・雪のふきだまり)はありませんか。	
		給排気筒トップの周囲に危険物(灯油・ガソリン・プロパンガス)はありませんか。	
		トップフードが必ず取付けられていますか。	
		トップフードの給気口・排気口が異物でふさがっていませんか。	
		集合煙突に給排気筒を取付けた工事はされていませんか。	
	延長工事	床下・天井裏へ給排気してありませんか。	
		壁埋込みの配管工事はしてありませんか。	
		排気筒の長さは給気ホースに比べ極端に長くなっていませんか。	
		給気ホース・排気筒の長さは3m以内で曲がり数3箇所以内ですか。	
		排気筒の途中に水がたまるようなへこみ部はありませんか。	
		排気筒の延長立上げ寸法は1.8m以下になっていますか。	
電気配線		電源プラグはコンセントに確実に差し込まれていますか。	
		電源コードは高温部に触れていませんか。	
		電源コンセントは電源プラグの抜き差しが容易な位置にありますか。	
排気筒はずれ検知リード		排気筒はずれ検知リードは、給排気筒トップに接続されていますか。	
		排気筒はずれ検知リードは、給気ホースにそって固定されていますか。	

試運転

お客さま立合いで試運転を行ってください。

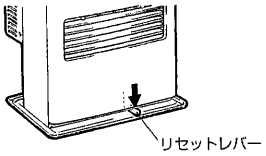
運転準備

1



油タンクに給油した後、油タンクおよび給油アタッチメントの送油バルブを「開」にします。

2



定油面器のリセットをします。

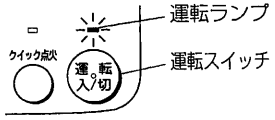
(1)定油面器のリセットレバーを下へ1回下げます。

(2)リセットレバーが元の位置に戻っているかを確認します。

3

電源プラグがコンセント(単相100V)に確実に差し込まれているか確認します。

運　転



1. **運転スイッチを押して「入」にします。**
   運転ランプが点灯し、数分後に燃焼を開始し、温風が出ます。その状態で約15分間運転して異常表示等が出ないか確認してください。
   異常表示がでたときは、取扱説明書の『故障・異常の見分けかたと処置方法』を参照願います。
2. **再度運転スイッチを押して「切」にします。**
   運転ランプが消灯し、しばらくして本体が冷えると運転が停止します。

メモ

- 室内温度が30℃以上ある場合に試運転するときには、温度/タイマー設定ボタン▲を5秒以上押し続けて「H」を表示させると最大燃焼量で連続運転を行います。
- 連続運転は自動的に約10分間で解除されますが、▼ボタンか運転スイッチを「切」にしても解除できます。

お客さまへの説明

1. 取扱説明書によって製品の取扱いを説明してください。
2. 保証書に必要事項を記入のうえ、保存のお願いをしてください。
3. この据付工事説明書は引っ越しなどで製品を移動する際に必要となりますので、取扱説明書とともに必ずお客さまに渡して、一緒に保管してくださるようお願いしてください。

三菱電機株式会社
中津川製作所　〒508 岐阜県中津川市駒場町1番3号